

令和3年度第1回鶴岡公園環境整備懇談会
鶴岡公園正面広場整備について

令和3年6月8日

鶴岡市都市計画課

1. 歴史の形跡が感じ取れる広場

- 土塁や石積みを模した擁壁、二ノ丸の断面や形状を説明する看板によって、歴史の形跡が感じ取れるようにします。
- 金峯石の説明を付した看板を設置して、多くの人に金峯石の価値を知ってもらうようにします。

2. 日常時でもイベント時でも活用しやすい広場

- 日陰のある休憩施設でゆっくりできるようにします。
- イベント時には屋台等が置かれ、賑わいある空間にします。
- 水飲みや照明など、多くの方が利用しやすい設備を配置します。
- 車椅子の利用者でも活用しやすいよう施設に工夫を施します。

3. 自由な発想で広々と利用できる広場

- すべり台やブランコ等の遊具等を設けず、築山や飛び石等によって、子どもたちが自由な発想で遊べる広場にします。
- お花見の際に、シートを敷いてゆったり花見ができるようにします。

4. 観光客にわかりやすい広場

- 正面広場の歴史的な位置づけを知ってもらうための看板等を設置します。
- QRコードの使用など、外国人観光客にもわかりやすい案内板を設置します。

令和2年度の経過報告

令和2年 7月8日	第1回鶴岡公園環境整備懇談会 ○内堀浄化事業について ○正面広場整備計画について ○桜等樹木の更新計画について ■出席者：鶴岡公園環境整備懇談会委員 14名
令和2年 8月1日	第1回鶴岡公園ワークショップ ○正面広場の利活用における意見徴収 ○外堀周辺道路の整備内容における意見徴収 ■出席者：懇談会委員、町内会、幼稚園団体・保育園団体、高校生、一般 22名
令和2年 10月10日	第2回鶴岡公園ワークショップ ○第1回ワークショップの結果報告 ○正面広場及び外堀周辺道路の実施設計（案）における意見徴収 ■出席者：懇談会委員、町内会、幼稚園団体・保育園団体、高校生 13名
令和2年 12月16日	第2回鶴岡公園環境整備懇談会 ○正面広場整備計画について ○外堀周辺道路整備事業について ○桜等樹木の更新計画について ■出席者：鶴岡公園環境整備懇談会委員 11名



第1回懇談会 (7.8)



第1回ワークショップ (8.1)

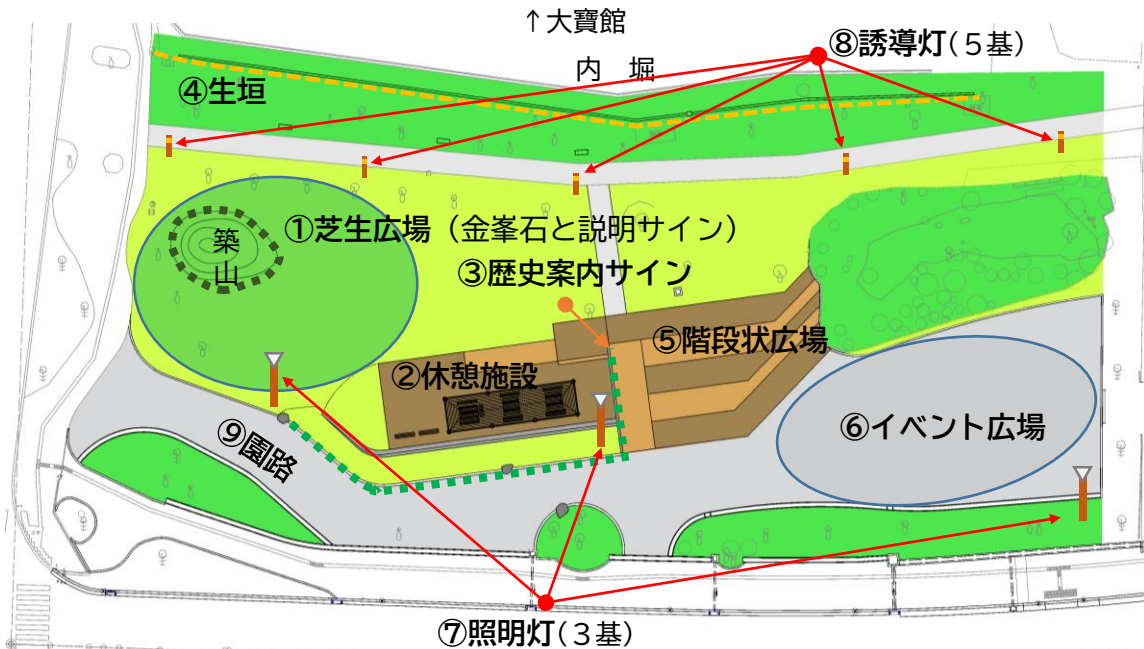


第2回ワークショップ (10.10)

鶴岡公園正面広場設計の考え方

No.	意見（懇談会・ワークショップ）	設計の考え方、意見への対応
1	階段状広場：段差について、15cmの高さでは低いのではないかと。／子供に対して安全な作りにして欲しい。	休憩施設とイベント広場をつなぐ通路としての役割もあるが、階段状広場で休憩することや子供が使うことも考慮し、基本設計のとおり15cmの高さとする。 →整備内容⑤
2	内堀の柵：堀沿いの柵は、緑豊かな鶴岡公園の景観やイメージに合わない。	既存の生け垣を活用することとし、柵は設置しない →整備内容④
3	夜間照明：夜は暗いイメージがあるため、照明を数カ所設置して欲しい。	広場内に照明灯を3基、園路誘導灯を5基設置し、夜間でも明るさを確保する。 →整備内容⑦、⑧
4	土塁の再現：土留めとしてコンクリート製擁壁を設置する必要はあるのか。	階段状広場、イベント広場の広さを確保するため、擁壁を設置する。なお、擁壁断面は歴史案内サインの設置場所として活用する。 →整備内容③
5	土塁の再現：歴史再現として、石積み風ではなく、石積みを再現してはどうか。	石積みで再現する。
6	金峯石：石垣に使用されていたことが理解できる活用の仕方や、まとめて配置し、説明板を置き歴史サインの一つとして活用してはどうか。	公園内の金峯石を集約し芝生広場の築山の土留めとして設置、付近に説明板を設置し歴史案内サインとする。 →整備内容①
7	イベント広場：二の丸のお堀があったことを表す方法として、舗装で水を表現することはよい。	広場の大部分がお堀であったことから、水面を表現する。 →整備内容⑨
8	イベント広場：舗装は日光の照り返しが少ないのが良い。／水はけをよくして欲しい。	通常のアスファルトではなく、景観性を重視した舗装とする。また、舗装面に傾斜をつけ、水はけをよくする。 →整備内容⑨

整備内容【実施設計】



①芝生広場 (金峯石と説明サイン)

・歴史的資源との調和を図るため、遊具等は設置せず築山や飛び石等を配置、子どもたちが自由な発想で遊べる広場とし、石積に利用された金峯石の説明サインを設置する。



①芝生広場・金峯石説明サイン表現イメージ

②休憩施設

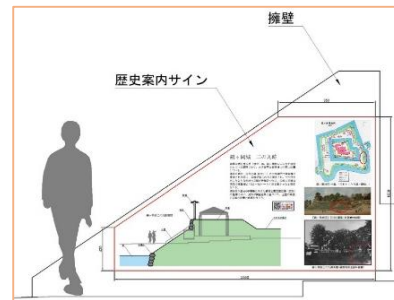
・大寶館を眺望し、日陰のある休憩施設としてあずまやを設置。車いす利用に対応したスロープや、テーブル、ベンチを置く。
・階段状広場を介しイベント広場へ往来しやすいレイアウトとした。



②休憩施設イメージ

③歴史案内サイン

・可能な限り再現した二ノ丸跡の歴史的な位置づけを知ってもらうための看板等を設置する。
・QRコードなどで、外国人観光客にもわかりやすい案内板を設置する。



③歴史案内サインイメージ

④お堀沿いの生垣

・柵は設置せず、既存の生垣を活用する。

⑤階段状広場

・イベント広場からの休憩施設までの通路として、イベント時の休憩場所として、多様な使い方ができるように配慮。
・休憩施設とデッキでつなげることで、車いす利用者もアクセスしやすいように配慮。



⑤階段状広場イメージ

⑥イベント広場

・キッチンカー等が乗入できる舗装構成と、対応する設備(給排水・電気)を設置する。



⑥イベント広場イメージ

⑦照明灯

・園内照明としてLED照明灯を設置する。(3基)

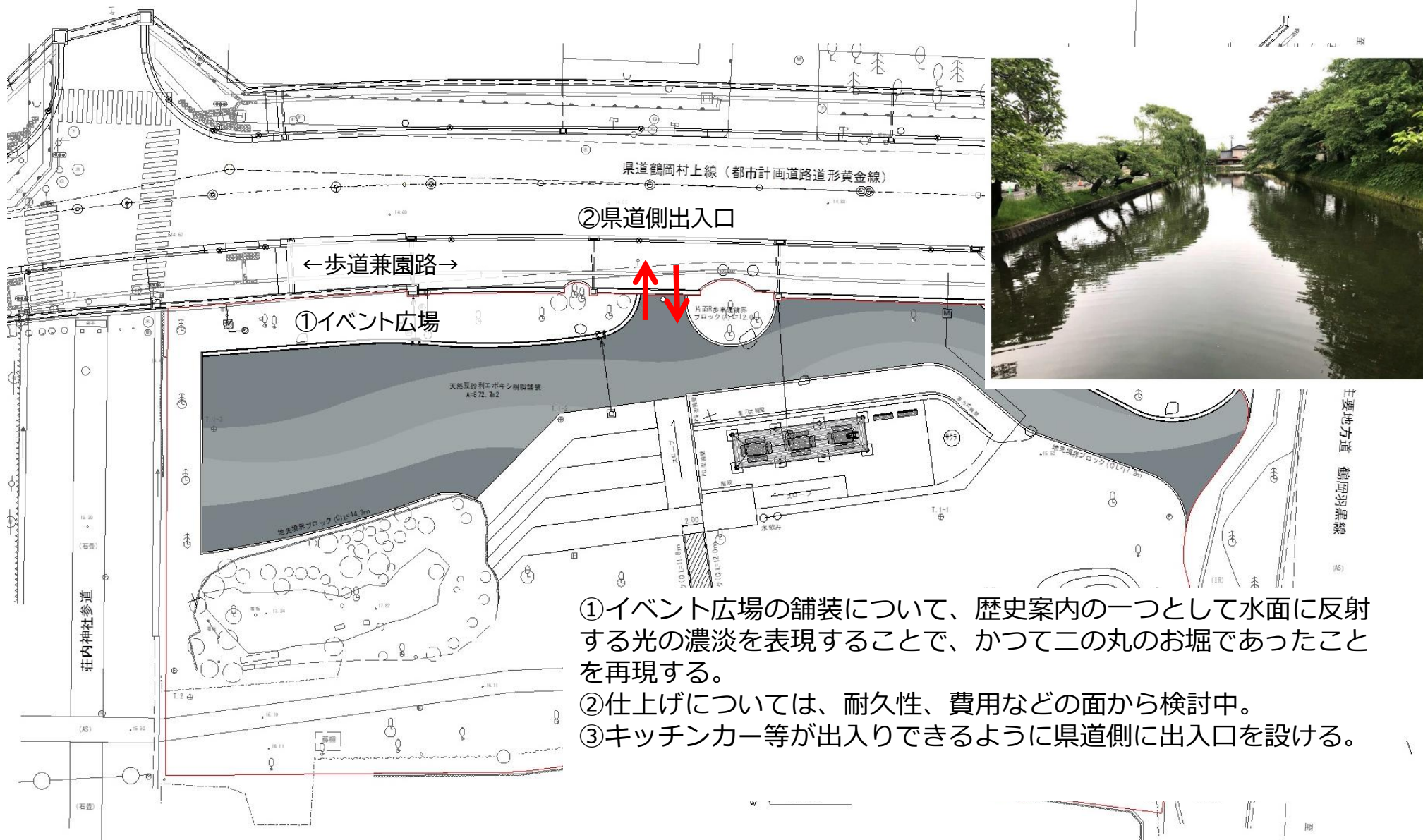
⑧誘導灯

・堀沿いの園路には誘導灯を設置する。(5基・高さ80cm)

⑨園路

・通常のアスファルトではなく、二ノ丸のお堀をイメージした景観性を重視した舗装による施工とし、広場内の調和を図る。

① イベント広場の舗装表現について【協議事項】



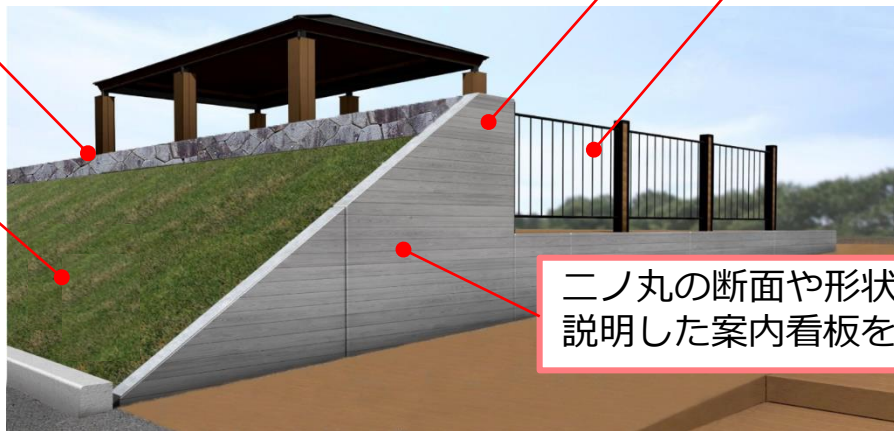
- ① イベント広場の舗装について、歴史案内の一つとして水面に反射する光の濃淡を表現することで、かつて二の丸のお堀であったことを再現する。
- ② 仕上げについては、耐久性、費用などの面から検討中。
- ③ キッチンカー等が出入りできるように県道側に出入口を設ける。

② 歴史案内サイン表現について【協議事項】 二の丸土塁

歴史再現イメージ

石積の再現

土塁の再現



土塁の土を背負うための擁壁

転落防止柵

二ノ丸の断面や形状等を説明した案内看板を設置。

案内文(拡大)

鶴ヶ岡城 二の丸跡

鶴岡公園正面広場(仮称)は、鶴ヶ岡城の二の丸が造成されていた場所であり大手御門と二の丸御隅櫓の中間に位置している。

二の丸の石垣は、酒井氏時代(元和8年(1622年)から)に建造されたと推定され、石垣の高さは、現在の地盤面より3.0~3.5メートルほど高く、外堀に突き出た形状の石垣が特徴的である。

右の写真と城図は、共に明治時代初期のものであり、堀水面より土留石、土塁、石垣、塀を確認できる。



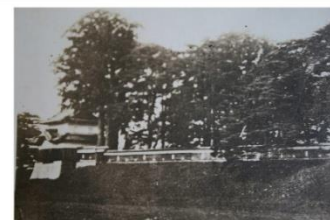
QRコードによる外国語への翻訳

鶴ヶ岡城 二の丸跡

鶴岡公園正面広場(仮称)は、鶴ヶ岡城の二の丸が造成されていた場所であり大手御門と二の丸御隅櫓の中間に位置している。

二の丸の石垣は、酒井氏時代(元和8年(1622年)から)に建造されたと推定され、石垣の高さは、現在の地盤面より3.0~3.5メートルほど高く、外堀に突き出た形状の石垣が特徴的である。

右の写真と城図は、共に明治時代初期のものであり、堀水面より土留石、土塁、石垣、塀を確認できる。



鶴ヶ岡城二の丸御角櫓(鶴岡市郷土資料館蔵)



『鶴ヶ岡城図』石川成運筆(筑波博物館蔵)



出典「史料からみた鶴ヶ岡城」



② 歴史案内サイン表現について【協議事項】 金峯石



適切な大きさと特徴等が分かりやすい金峯石を配置し、近くに石に関する説明を付した看板を設置する。

⇒金峯石の価値を理解してもらう。

築山の土留や飛び石に利用する。

⇒金峯石に親しみを持ってもらう。

説明版イメージ



金峯石



金峯山



QRコードによる外国語への翻訳 ←

鶴岡市の南西にある金峯山(きんぼうざん)
(標高四七一m)の東側、中腹から山頂にかけて花崗岩類が分布しており、「金峯石」と呼ばれ、近年まで石碑や鉄道敷設に使用され、山内には採石場の跡が今も残る。
貞享元年(一六八四)二の丸東南隅櫓の石垣は金峯山から切り出し、青竜寺川を舟で下し、大山街道の橋の南東岸に入込場を作り、切り石を陸揚げし大手に運んだ。それに要した人足は数千人とされ(鶴岡市市史上巻より)鶴岡公園内の各所に点在する金峯石は、鶴ヶ岡城の歴史を今に伝えるものである。

金^{きん}峯^{ぼう}石^{いし}

鶴岡公園正面広場整備イメージ図



高山樗牛碑等の移設先の検討について

概要 鶴岡公園正面広場内市役所前交差点付近に整備されている高山樗牛碑等は、昭和48年に荘内文化財保存会が現在地に整備したものであり、平成25年に会の解散により市が寄贈を受け、社会教育課が所管し、都市計画課が維持管理を行ってきた。令和3年から開始する県事業 都市計画道路道形黄金線の拡幅工事に伴い高山樗牛碑等の移設が必要となった。

1. 移設の理由：都市計画道路道形黄金線の拡幅工事に伴い、樗牛碑等の設置場所が歩道や緑地として整備されることになったため。

(工事所管：都市計画課 工事期間 R3.7着手～4年度完成予定)

都市計画課の見解：公園正面広場の整備計画内で樗牛関係碑の設置スペースを確保することは困難

2. 樗牛碑等の設置経過（概要）

昭和24年 高山樗牛記念碑建立のため 樗牛顕彰会を設立し寄附を募り、現大宝館裏山に文学碑①を建立した。

昭和26年 樗牛胸像建立のため、樗牛顕彰会が寄附を募り、胸像②を文学碑①と隣接して建立した。

〃 笹原儀三郎氏が樗牛の菩提寺から墓碑③を譲り受け、鶴南高玄関前に設置した。

昭和48年 荘内文化財保存会が文学碑等を観光資源とするため現在地に移設した。

平成25年 荘内文化財保存会が解散にともない市が寄贈を受けた。社会教育課が所管し、日常管理は都市計画課が行っている。

3. 移設先に関する意見等の聞き取り... 都市計画課

(1) R2.8.1 鶴岡公園ワークショップ

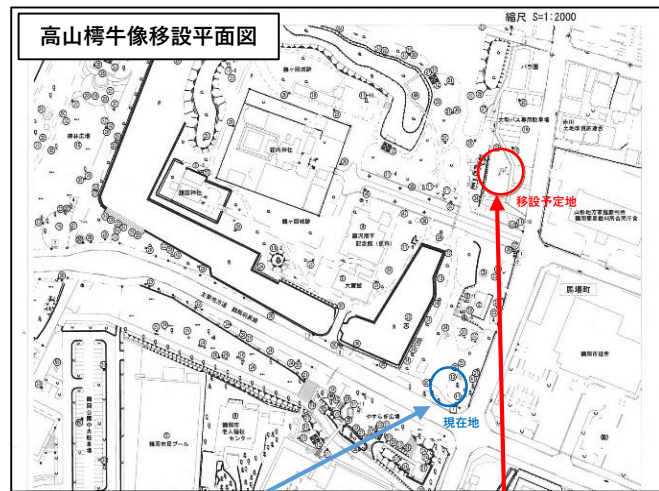
- ①参道の右側偉人像が並んでいるところへの集約が望ましい。
- ②藤沢周平記念館の近くが望ましい。
- ③歴史的な資料がある大宝館の近隣が望ましい。
- ④現在地でコンパクトに設置してはどうか。

(2) R2.12.16 鶴岡公園環境整備懇談会

- ①公園内を散策した際に樗牛碑が見られるよう、公園内の設置が望ましい。

4. 移設先に関する検討結果...社会教育課

R2.11.19 都市計画課と現地確認を行い現状把握



移設先案「荘内神社鳥居北側 旧バラ園跡地」

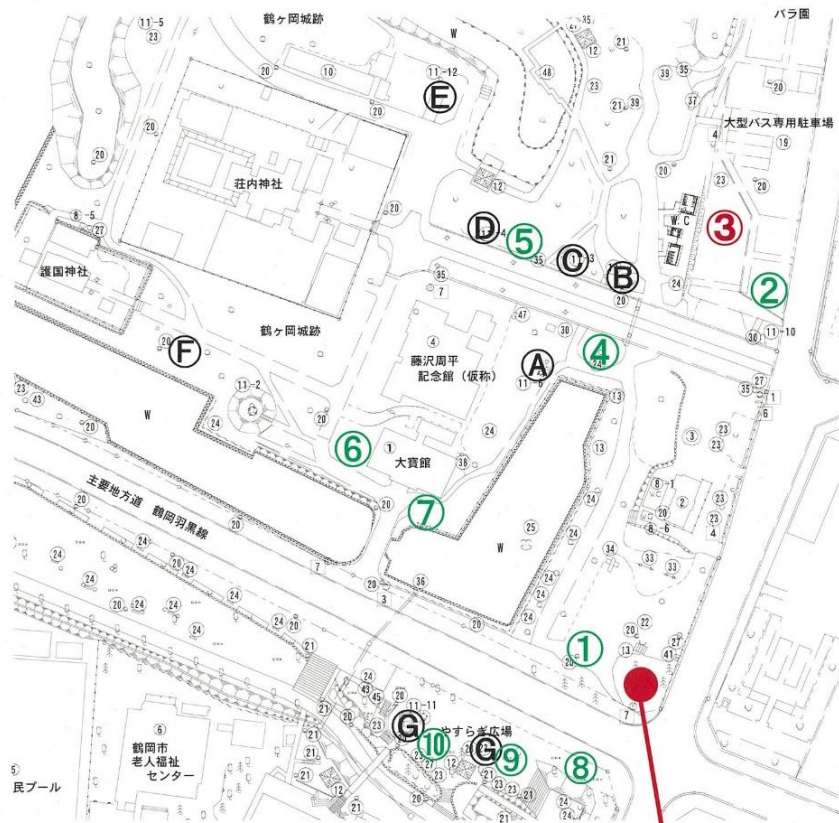
選定理由①樗牛碑及び説明板など計7基が設置できるスペースが確保可能。

②多くの市民・観光客の目に触れる場所である。



高山樗牛碑等の移設先の検討について

高山樗牛碑移設先検討平面図



①～⑩：樗牛関係碑移設候補先

高山樗牛関係碑
現在の位置

その他の人物碑等

- ① 斎藤外市 胸像(土屋竹雨撰文)
- ② 酒井調良 寿碑(脇に庄内柿の植樹)
- ③ 和田光利 句碑: 麦は刈るべし 最上の川の 押しゆく光
- ④ 土屋竹雨 詩碑: 故国の山水 清輝多し 帰らんと日ひ帰らんと日ひ 猶未だ帰らず 一夜夢に 皓鶴の背に乗じて 遠く明月峯頭に向って飛ぶ
- ⑤ 酒井忠明 歌碑: 今もなお 殿と呼ばれることありて この城下町に われ老いにけり
- ⑥ 石原莞爾 「生誕の地」碑
- ⑦ 阿部武雄 顕彰碑



現在の位置 南向(道路向き)
胸像は月山(南西)を向いている

- ・交差点、歩道沿いに面しており多くの
人目につく位置にある
- ・昭和48年以降、約40年間にわたり現在地
にあり、市民に認知されている。



移設候補③ 東向き(道路側向き)

- ・広い敷地が取れる
- ・②よりも一段高い箇所になる
- ・周辺に他に何もなく、駐車場わきに位
置し、人目につきやすい。
- ・樗牛広場のような雰囲気ができる
- ・背景に公衆トイレが映り込む



移設候補⑥ 西向き

- ・敷地が狭く、移設スペースなし
- ・桜を伐採しないと移設不可
- ・大宝館修繕工事の際には支障となる可
能性あり



移設候補先⑨ 北向き(道路向き)

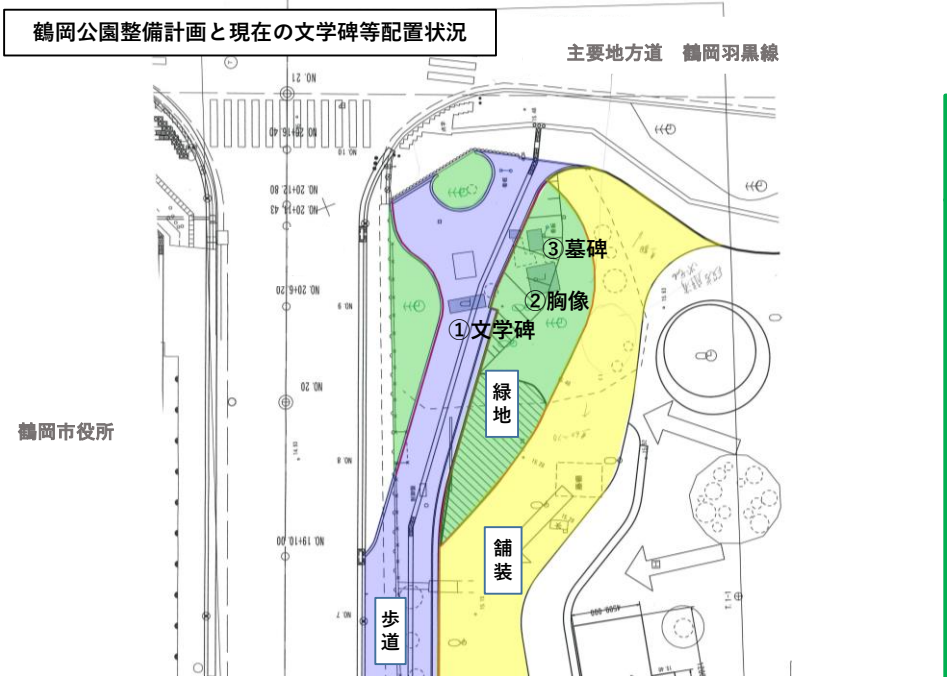
- ・スペースはあるが奥まった位置になる。
- ・歩道沿いに樹木があるため葉が茂ると
歩道からは見えにくい。
- ・奥まった位置のため歩道からの導線確
保が難しい。
- ・歩行者が少ない。

高山樗牛碑等の移設先の検討について

■鶴岡公園正面広場整備計画 イメージ（案）



現状



鶴岡公園整備計画と現在の文学碑等配置状況

○現在地にある碑や説明板（樗牛関係碑①～⑦）
 ①文学碑 ②胸像 ③墓碑 ④標柱 ⑤履歴碑 ⑥説明板（樗牛について） ⑦説明板（文学碑・墓碑・胸像について） ⑧鶴岡町役場跡標柱 ①～⑤、⑦、⑧は荘内文化財保存会、⑥は市で設置した

○現在に至るまでの経過
 昭和23年 高山樗牛記念碑建立のため樗牛顕彰会（会長鶴岡市長 加藤精三）を設立し寄附を募る
 昭和24年 現大宝館裏山に①文学碑を建立
 昭和26年 樗牛顕彰会が寄附を募り（一部鶴岡市負担）②胸像を①文学碑と同じ場所に建立
 〃 鶴岡南高校の笹原儀三郎校長が樗牛の菩提寺である清水市（現：静岡県清水区）の龍華寺から③墓碑を譲り受けて同校正門前に移設
 昭和48年 荘内文化財保存会（会長鶴岡市長 白井重彦）が①文学碑②胸像③墓碑を現在地に移設
 → 1カ所にまとめ観光資源に役立てたいという意見が多数あり、関係者が「文碑など移設懇談会」を立ち上げ検討を行い、長年の課題となっていたもの
 昭和49年 ④標柱を建立
 → 「ひと目で誰かわかるような表示が欲しい」との要望があり設置
 ⑤履歴碑を建立
 昭和50年 社会教育課が樗牛についての⑥説明板を設置
 平成15年 ⑦文学碑・胸像・墓碑の説明板を設置
 平成25年 荘内文化財保存会解散した。保存会が設置した看板等は市へ寄贈以降 社会教育課が所管し、維持管理は都市計画課が対応（草刈や雪囲い等）